



CAPWAP リンク集約サポートの設定

- [リンク集約について \(1 ページ\)](#)
- [CAPWAP LAG サポートについて \(1 ページ\)](#)
- [CAPWAP LAG サポートの制約事項 \(2 ページ\)](#)
- [コントローラでの CAPWAP LAG サポートの有効化 \(2 ページ\)](#)
- [コントローラでの CAPWAP LAG のグローバルな有効化 \(3 ページ\)](#)
- [コントローラでの CAPWAP LAG のグローバルな無効化 \(3 ページ\)](#)
- [AP プロファイルの CAPWAP LAG の有効化 \(3 ページ\)](#)
- [AP プロファイルの CAPWAP LAG の無効化 \(4 ページ\)](#)
- [コントローラでの CAPWAP LAG サポートの無効化 \(5 ページ\)](#)
- [CAPWAP LAG サポートの設定の確認 \(5 ページ\)](#)

リンク集約について

LAG を使用すると、インターフェイスごとにプライマリ ポートとセカンダリ ポートを設定する必要がなくなるため、コントローラの設定が簡素化されます。いずれかのコントローラポートに障害が発生した場合は、他のポートへトラフィックが自動的に移行します。少なくとも 1 つのコントローラポートが機能している限り、システムは継続して動作し、アクセスポイントはネットワークに接続されたままとなります。また、ワイヤレスクライアントは引き続きデータを送受信します。

CAPWAP LAG サポートについて

CAPWAP LAG サポート機能は、CAPWAP 用に複数のイーサネットポートをサポートしているアクセスポイントに適用されます。

デュアルイーサネットポートを搭載した 11AC AP では、データチャネルで CAPWAP AP LAG サポートが必要です。

Cisco Aironet 1850、2800、および 3800 シリーズの AP では、2 番目のイーサネットポートがデフォルトでリンク集約 (LAG) ポートとして使用されます。この LAG ポートは LAG が無効になっている場合に RLAN ポートとして使用できます。

次の AP は、LAG ポートを RLAN ポートとして使用します。

- 1852E
- 1852I
- 2802E
- 2802I
- 3802E
- 3802I
- 3802P

CAPWAP LAG サポートの制約事項

- アクセスポイントはCAPWAPLAGサポート向けに明確に有効にする必要があります。
- CAPWAP データはIPv6をサポートしていません。
- LAG を有効にする場合はデータ DTLS を有効にしないでください。

コントローラでの CAPWAP LAG サポートの有効化

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	ap lag support 例： Device(config)# ap lag support	<p>コントローラでCAPWAPLAGサポートを有効にします。</p> <p>(注) このコマンドを実行すると、次の警告文が表示されます。</p> <p><i>Changing the lag support will cause all the APs to disconnect.</i> (LAG のサポートを変更するとすべての AP が切断されます。)</p> <p>したがって、LAG 機能を持つすべての AP がリブートし、有効になっている CAPWAP LAG に join します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	end 例 : Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。また、Ctrl+Z キーを押しても、グローバル コンフィギュレーション モードを終了できます。

コントローラでの CAPWAP LAG のグローバルな有効化

CAPWAP LAG がコントローラでグローバルに有効になると、次のようになります。

- AP は、コントローラに join します。
- AP は、CAPWAP サポートを交換します。
- LAG が AP で有効になっている場合、LAG モードが開始されます。

コントローラでの CAPWAP LAG のグローバルな無効化

CAPWAP LAG がコントローラでグローバルに無効になると、次のようになります。

- AP は、コントローラに join します。
- AP は、CAPWAP サポートを交換します。
- LAG が AP ですすでに有効になっている場合、AP LAG 設定が AP に送信されます。
- AP がリブートします。
- AP は、無効になった LAG を使用して再度 join します。

AP プロファイルの CAPWAP LAG の有効化

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : Device# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	ap profile ap-profile 例 : Device(config)# ap profile xyz-ap-profile	APプロファイルを設定し、APプロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。 (注) 名前付きプロファイルを削除した場合、そのプロファイルに関連付けられていた AP はデフォルトプロファイルに戻らなくなります。
ステップ 3	lag 例 : Device(config-ap-profile)# lag	AP プロファイルの CAPWAP LAG を有効にします。
ステップ 4	end 例 : Device(config-ap-profile)# end	コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

AP プロファイルの CAPWAP LAG の無効化

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	ap profile ap-profile 例 : Device(config)# ap profile xyz-ap-profile	APプロファイルを設定し、APプロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。 (注) 名前付きプロファイルを削除した場合、そのプロファイルに関連付けられていた AP はデフォルトプロファイルに戻らなくなります。
ステップ 3	no lag 例 : Device(config-ap-profile)# no lag	AP プロファイルの CAPWAP LAG を無効にします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	end 例： Device(config-ap-profile)# end	コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

コントローラでの CAPWAP LAG サポートの無効化

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： Device# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	no ap lag support 例： Device(config)# no ap lag support	コントローラで CAPWAP LAG サポートを無効にします。 (注) LAG 機能を持つすべての Ap がリブートし、無効になった CAPWAP LAG に join します。
ステップ 3	end 例： Device(config)# end	コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

CAPWAP LAG サポートの設定の確認

すべてのシスコ AP のグローバル LAG ステータスを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
Device# show ap lag-mode
AP Lag-Mode Support Enabled
```

AP LAG 設定のステータスを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
Device# show ap name <ap-name> config general
Cisco AP Identifier : 0008.3291.6360
Country Code : US
Regulatory Domain Allowed by Country : 802.11bg:-A 802.11a:-AB
AP Country Code : US - United States
::
AP Lag Configuration Status : Enabled/Disabled
Has AP negotiated lag based on AP capability and per AP config.
```

